

◎注意事項をよくお読み下さい



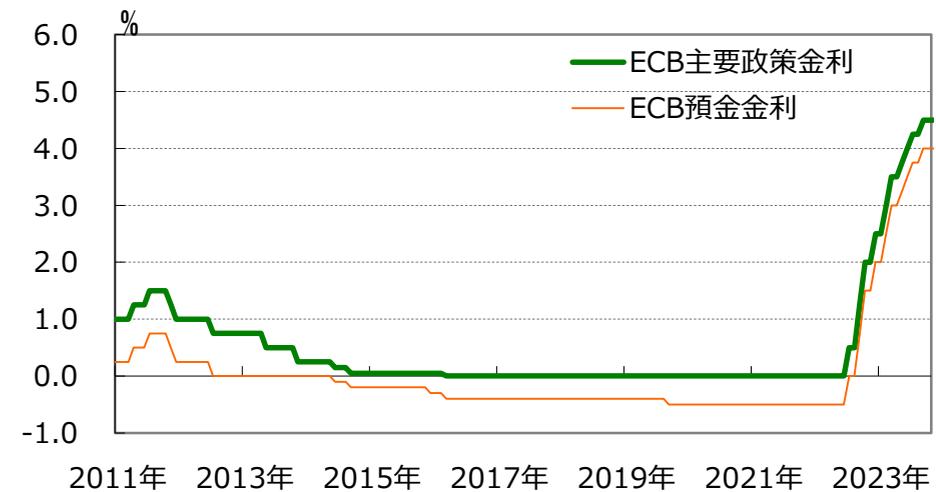
りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇概況

- ◆ ECBは12/14の理事会で、2会合連続での政策金利据え置きを決定した(市場予想通り)
 - ◆ ラガルド総裁は記者会見にて、今理事会で利下げの議論は全くなかったとし、引き続きインフレへのガードを緩めるべきではないと発言。利下げの議論を開始した米FRBとのスタンスの違いを明確化した
- ✓ 12月14日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では金利水準の据え置きを決定。中銀預金金利は4.00%、主要政策金利は4.50%、中銀貸出金利4.75%。市場予想通りで、発表後も反応は限定的であった。
 - ✓ また、今回の理事会でECBがパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）で購入した債券のポートフォリオについて、2024年6月までは全額を再投資し、7月以降は毎月75億ユーロずつ再投資を縮小、2024年末には全ての再投資を終了させることを決定した。
 - ✓ ECBは声明で、インフレについて、前年のエネルギー価格下落に伴うベース効果から短期的には上昇が見込まれると指摘も、引き続き金利をこの水準で十分に長く維持すれば、インフレ率を目標の2%まで戻すことに大きく貢献するだろう、と改めて強調した。同時に発表されたECBスタッフによるインフレ見通しは、2025年が据え置かれ、2026年でようやく2%割れを見込むなど、慎重な見通しが示された。
 - ✓ ラガルド総裁は記者会見にて今回の理事会で、利下げについての議論は「全くなかった」と明確に否定した。またインフレについては「ガードを緩める時期ではない」とし、引き続き「データ（経済指標）次第」を強調。今後は賃金や企業利益の動向を見極める必要があるとの認識を示した。
 - ✓ 利下げの議論を開始し、ハト派サプライズとなったFOMCに比べ、ECBは引き続きインフレの見通しに慎重な姿勢を示した。欧州経済の低迷もあり市場では、米国対比で早い利下げの開始が見込まれていたが、過度な織り込みが剥落し、ドイツ金利は下げ幅を縮小、ユーロは対ドルで上昇。一方、PEPPの再投資減額が市場予想より緩やかなものに留まったことから、イタリア国債の対ドイツ国債利回り格差は縮小した。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2023年	2024年	2025年	2026年
実質GDP成長率	+0.6	+0.8	+1.5	+1.5
9月時点の見通し	+0.7	+1.0	+1.5	-
HICP（消費者物価）	+5.4	+2.7	+2.1	+1.9
9月時点の見通し	+5.6	+3.2	+2.1	-

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。